

「高齢者のボランティアなどの社会活動」に関するアンケート報告

高齢者のボランティア活動など地域における社会活動について、県民の皆さんの関心やその意識傾向を把握するために、「高齢者のボランティアなどの社会活動」についてのアンケートを実施しました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さまにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおりご報告申し上げます。

1 アンケート実施期間

平成20年11月16(日)から12月8日(月)まで

2 意見募集の結果

- (1) 対象者数 1,143名
- (2) 回答者数 807名
- (3) 回答率 70%

3 属性

(1) 性別 男性：54%、女性：46%

(2) 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
102名	199名	191名	176名	112名	27名
12.6%	24.7%	23.7%	21.8%	13.9%	3.3%

(3) 地域別

北勢	中勢	伊勢 志摩	伊賀	東紀州
360名	204名	131名	78名	34名
44.6%	25.3%	16.2%	9.7%	4.2%

4 アンケート結果

Q1 【社会貢献活動への意欲】

現在もしくは以前、地域でボランティアなどの活動を行っているかどうかの問いに対し、「はい」と回答された方は252人(31%)、「いいえ」と回答された方は555人(68%)でした。

「はい」と回答された方の年齢構成は、20代が27人(11%)、30代が33人(13%)、40代が65人(26%)、50代が65人(26%)、60代が47人(18%)、70代以上が15人(6%)となっています。

「はい」と回答された方の性別は、男性が147人、女性が105人です。

Q 2 【社会貢献活動を行っていない等の理由について】

Q 1で「いいえ」と回答された方に、活動していない理由をお聞きしました。

複数回答可により得られた総回答数が1135人。一番多い理由は「仕事や家事で忙しいから」が385人(33%)、次いで「活動を始めるきっかけがないから」が234人(20%)、次が「どのような活動をしていいかわからないから」が187人(16%)でした。

仕事や家事で忙しいという回答が多い要因は、今回の回答者の約8割が20～50代のためと考えられます。

Q 3 【将来的な活動の意欲】

Q 1で活動をしていないと回答された方555人に、将来的な活動の意欲についてお聞きしたところ、「とてもしたい」が13人「できればしたい」が279人、併せて292人(52%)、「できればしたくない」が61人、「したくない」が28人、併せて89人(15%)、「よくわからない」が164人(29%)でした。

現在地域でボランティアなどの活動を行っていない方の約半数が、将来的な活動の意欲をお持ちであることがわかりました。

Q 4 【現在行っている社会貢献活動の内容について】

Q 1で以前もしくは現在活動をしていると回答された方252人に、その社会貢献活動の内容についてお聞きしました。

複数回答可により得られた総回答数が457人。このうち、一番多い回答が、「環境美化活動」の117人(全体の回答数の25%)でした。次いで「防犯・防災活動」の78人(同17%)、次が「次世代育成・子育て支援活動」48人(同10%)、健康づくり・スポーツの普及啓発活動46人(同10%)、福祉活動46人(同10%)でした。

Q 5 【今後したい社会貢献活動の内容について】

Q 1で以前もしくは現在活動をしていると回答された方252人、及びQ 3で将来的に地域においてボランティアなどの活動を「とてもしたい」「できればしたい」と回答された方292人の、併せて544人に今後したい活動内容をお聞きしました。

複数回答可により得られた総回答数が1175人。このうち、一番多い回答は「環境美化活動」の199人(全体の回答数の16%)でした。次いで、「次世代育成・子育て支援活動」の176人(同14%)、次が「防犯・防災活動」139人(同11%)、「福祉活動」135人(同11%)でした。

Q 6 【高齢者の社会貢献活動の必要性】

高齢者(60歳以上の方を高齢者とする。)の方が、地域においてボランティアなどの社会貢献活動を行うことは必要かどうかという問いに対し、「必要である」と回答された方は331人(41%)、「どちらかという必要である」が357人(44%)、「どちらかという不要である」が16人(1%)「不要である」が2人(0%)、「関心がない(特に何も感じない)」が18人(2%)、「よくわからない」が63人(7%)でした。

高齢者の方の社会貢献活動について、おおむね必要と考える方が全体の85%を占めています。

Q 7 【高齢者の社会貢献活動を必要とする理由】

地域において高齢者のボランティアなどの社会活動が行われることで期待される効果について、主なものを2つ選んでいただきました。

得られた総回答数が1536人。このうち、一番多い回答は「高齢者の生きがい・健康づくり（介護予防）」の556人（全体の回答数の36%）、次いで「高齢者の引きこもりや孤立を未然に防ぐこと」の221人（同14%）、次に「就業や経験によって培った知識や知恵を社会に還元すること」211人（同13%）、「文化・伝統行事を次世代に伝えること」175人（同11%）、「地域の世代間交流・活性化」182人（11%）でした。

Q 8 【高齢者の社会貢献活動を行う場合の問題点】

高齢者がボランティアなどの社会活動を行うにあたり問題や障がいとなることは何かという問いについて、主なものを3つ選んでいただきました。

得られた総回答数は1854人。このうち、一番多い回答は「身体能力または健康上の問題」の465人（全体の回答数の25%）、次いで「活動するきっかけがないこと」の324人（同17%）、次いで「個人的資質の問題」314人（16%）、あと「家庭の事情」210人（11%）、「活動資金」200人（10%）、「一緒に活動する仲間がいないこと」149人（8%）でした。

Q 9 【情報の入手媒体】

自治体や各種団体が行うボランティア事業などの参加募集の周知方法について、どのような広報が有効という問いについて、主なものを2つ選んでいただきました。

得られた総回答数は1509人。このうち、一番多い回答は、「県・市町の広報誌（県政だより、市政だよりなど）」の460人（全体の回答数の30%）、次いで「知人からの依頼・口コミ」の227人（同15%）、次いで「所属する組織や団体からの依頼やお知らせ」208人（13%）、「県・市町・社会福祉協議会の職員からの依頼や案内」206人（13%）でした。

参加募集を行う場合の周知方法については、自治体の広報誌を活用することがより有効と考えられます。

Q 10 【行政に対する要望】

県や市町が行う「高齢者の社会活動を支援する事業」について、どのような内容が有効かまたは必要かお聞きしました。

複数回答可により得られた総回答数は1996人。このうち、一番多い回答は「既存の活動団体の活動内容の広報・周知」の395人（全体の回答数の19%）、次いで「ボランティア活動だけでなく、収入につながる高齢者の雇用・就業を支援する事業」の378人（同18%）、次いで「高齢者ボランティアの人材バンクの設置及び運営」369人（同18%）、「活動資金の援助や活動する場の提供」291人（同14%）でした。

行政が実施する事業として、現在社会活動を行っている方や団体等の活動内容を把握し、そうした方々の活躍を更に進めることが求められていると考えられます。

また、無償のボランティア活動だけでなく有償ボランティア活動など収入につながる活動を支援することが求められているようです。

Q11 【高齢者への期待】

いただいたご意見を一部抜粋いたします。

- 1 60歳未満の方にお聞きした、高齢者の社会貢献活動に期待するもの。

高齢者が今まで身につけた知識や技術、経験、伝統等を後世に伝えて欲しい。
高齢者の活躍の場所が必要。また、高齢者の手助けを必要とする人も多い。
高齢者の方の手をお借りすることで、われわれ若い者の人手不足等の問題、地域の問題などある程度解消できると思う。
高齢者自身の生きがいづくり、健康維持、孤立防止、地域の安全・活性化、世代間交流、子育て支援が望まれる。
60歳以上を高齢者と位置づけるのはどうか。現実には60歳を超えても仕事をして収入を得なければ生活ができない。元気な60歳以上の方が働ける場所をもっと提供すべき。
ボランティア活動が負担になっては継続性、社会性に欠けてしまうので、有償ボランティア、もしくは登録制などのマッチングの方法も必要。
体力・気力も十分で、経験や知識等を地域のために活かしたいという方々が多いと思うが、それを生かす機会がないように思う。
高齢者のみが社会貢献活動をするのではなく、世代を超えて、地域全体でボランティアなどをしていければいい。
行政が高齢者の社会貢献活動を主導するのはどうか。環境を整備するのはいいが、あくまで高齢者個人の自主性に任せるべき。
- 2 60歳以上の方にお聞きした、高齢者の社会貢献活動に期待されていると思われるもの、または期待してもらいたいもの。

高齢者の生きがいづくり、活動することにより運動を兼ねた健康増進。
自分のやりたいことが社会貢献活動になればいい。
今までの知識や経験を活かした活動。
文化、伝統行事、知識や知恵を次世代への伝承。
自分を高齢者だと思ったことはない。しかし、社会貢献活動をする適齢期だと思っている。今も海外の方を受け入れるなど国際交流に意欲を燃やしている。
高齢者の定義が現状と合わない。60代はまだ現役として働ける。年齢の線引きは不要。
期待する、しないの問題でなく、高齢者自身が個々の健康状態や家庭環境、能力に応じ、何ができるかを考え、それを行政が支援する環境が必要。
社会貢献活動とは漠然としているので具体的にどのような活動をさしているのか不明。行政は高齢者に何を望んでいるのか。(健康でいることが社会貢献なのか、高齢者の知識や能力を活かしたいのか。)社会保障制度に不安を抱え、県民の大多数は自己の生活防衛のみ。社会貢献活動は富裕層に任せる。
超高齢化社会を迎え、団塊の世代の退職、介護現場の人材不足、家族力の弱体化などから地域力の強化が求められる、元気な高齢者を積極的に活用することは何よりも重要。
生きがいもさることながら、年金生活以外の副収入になりえるものが必要。ボランティア=無償を払拭すべき。
ボランティア活動が、自然な形で、無理なく、いろんな所で進められるような社会環境の成熟を願う。しかし、わが身に振り返れば、なかなか積極的な行動に移すことは難しい。
などの、さまざまなお意見をいただきました。

まとめ

お忙しい中、ご回答いただきましたモニターの皆さまには、あらためて心よりお礼を申し上げます。

平成20年7月に厚生労働省が出した「日本人の平均余命 平成19年簡易生命表」では日本人の平均寿命は男性が79.19歳、女性が85.99歳となっています。

まさに人生80年時代が到来していると言えます。

また、我が国は前例のない高齢社会、人口減少時代を迎える中、団塊の世代の一斉退職、社会保障制度への不安、地域社会における人間関係の希薄化などさまざまな問題を抱えています。

こうした社会では、一人一人の存在がますます重要となってきます。

とりわけ高齢者の方が、健康でこれまで培ってきた経験や知識等を活かし、地域社会の課題に対応していただくなど、積極的に地域社会と関わりを持ち続けていただくことは、若い世代や地域においても望まれていることであり、高齢者の皆さんの生きがい、健康維持にもつながるものと考えています。

人生80年時代を迎えた今、高齢者の皆さまが生き生きと充実した生活をしていただくためにも、今回いただいたご意見を今後の取組に活かしてまいりたいと考えています。ありがとうございました。